



学校データ

【学級数】

19学級

【児童生徒数】

431人

【地域コーディネーター

の有無】

有・無

主体的にたくましく諸問題を解決する「問題解決力」の育成

1 はじめに

当校は、新潟市の「地域と学校パートナーシップ事業」に早くから取り組み、多くのボランティアの方が日々来校して活動している。しかし、子どもには地域の方の存在が当たり前で、感謝の気持ちや地域への関心が薄いように思われる。また、日ごろの学習において、自ら課題を見付け、粘り強く追究していく点で課題が見られる。そこで、地域に学び、発信していく生活、総合的な学習の時間を中核として、教育活動全体で「主体的にたくましく諸問題を解決する力（問題解決力）」を高めることに取り組んでいる。

2 取組の実際

(1) 概要



「問題解決力」の具体を「見つける力」「かかわる力」「決める力」と設定し、各学年の生活、総合的な学習の時間に位置付け、探究課題を明らかにして実践を進める。また、全学年で地域とのかかわりを取り入れ、地域への愛着を深める。

【各学年の探究課題と主な学習活動】

学 年	探究課題	主な学習活動
1年（生活）	がっこう だいすき	○スタートカリキュラム ○学校や自然のことを調べよう ○自分できることを見付けて伝えよう
2年（生活）	だいすき さかひが	○どきどきわくわく町たんけん ○見つけたことを伝え合おう
3年（総合）	地域のよさって何？ 【地域】	○西区の自慢を調べよう（西川、ビोटープ等） ○地域の先輩に学ぼう
4年（総合）	福祉って何？ 【福祉】	○見つけよう！自分にできること ○人にやさしいまちづくり
5年（総合）	食育のよさって何？ 【食育】	○西区・食のマイスターになろう（農産物、販売等） ○ありがとう、6年生
6年（総合）	自分ができることって何？ 【地域】	○自分たちにできることPART1（地域への発信） ○自分たちにできることPART2（校内への発信）

(2) 6年「職場体験を通して、自分たちができることを考える」

①地域の方からお話を聞き、自分たちの地域を振り返りながら課題を見つける。

【見つける力】

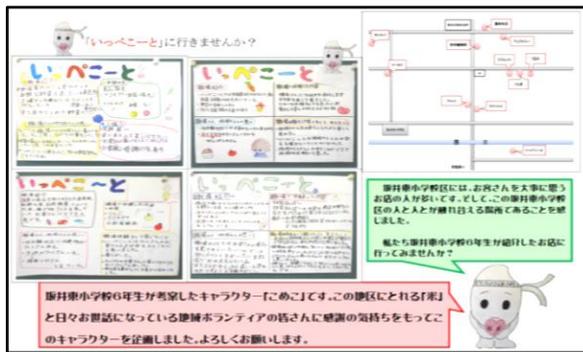
②職場体験を通して、ひと・もの・ことにかかわり、情報を取捨選択する。

【かかわる力】

【振り返り】お店には、地元の野菜をおいしく食べてほしいという願いの他に、いろんな世代との交流がありました。地域を盛り上げるときの参考にしたいです。

③地域に向けて自分ができることを発信する。令和元年度は、地域キャラクター作りとお店のチラシを作成した。

【決める力】



【学区のキャラクター「こめこ」のチラシ】

(3) 2年「どきどきわくわく町たんけん」

- ①10 か所の施設から自分が選んで見学し、様々な人が仕事をしたり利用したりしていることに気付く。

【見つける力】

- ②直接インタビューする活動を通して、仕事をしている人の思いを知る。

【かかわる力】

- ③発見したことや気付いたことを振り返り、発表会を行う。 【決める力】

【振り返り】 ゆうびんきょくの人たちは、話し方がていねいで、明るい感じで、いいなと思いました。おきゃくさんが気持ちよくなるようにしていることをはじめで知りました。

3 成果と課題

児童への意識調査で「総合的な学習の時間に自分の課題をもって取り組んでいる」児童の割合が昨年度に比べて向上している（肯定的評価 79%→88%）こと

から、総合的に「問題解決力」が育ってきているといえる。これは、各活動において重点とする資質・能力を明らかにすることで、手立てを明確にして実践できたからだと考えられる。

課題としては、子どもが地域の問題を自分事として探究し、発信できるように、地域の問題を「見つける」ための仕掛けに工夫が必要である。また、さらに主体的な子どもの姿を目指し、1～6年の系統性の検討と単元における教科との関連を進め、単元の再構築を図りたい。

4 おわりに

教育活動の中で、少しずつではあるが積極的な子どもの姿が見られるようになってきている。登下校中に、見守りのセーフティ・スタッフの方に「毎日、ありがとうございます」と丁寧にあいさつをする姿。コロナ禍において、児童会行事の内容を職員に提案する姿。運動会等の各種学校行事で、自らの学びを明らかにする姿等。これらは、生活、総合的な学習の時間を中心とした体験的な活動を通して、目指す資質・能力が育まれている姿として受け止めている。本校の強みである地域とのつながりを生かしながら、子どもがこれからの持続可能な社会の担い手として成長できるように取組を進めたい。